

令和7年度 国語教育研究発表会

研究主題



「自分のおもいを豊かに表現する子をめざして」

～相手意識・目的意識を明確にした言語活動を通して～

日 程

13:15 13:45

14:30 14:40

16:30

受付	国語科研究授業 3年1組 1年2組	休憩	挨拶	研究協議
----	-------------------------	----	----	------

研究授業

学年・組	教材名	単元名	授業者
3年1組	『サーカスのライオン』 川村 たかし 文 降矢 なな 絵	私だけのじんざMAPを用いてmessageを伝えよう	奥村 知也 (四箇郷小学校教諭)
1年2組	『スイミー』 レオ・レオニ 文・絵 谷川 俊太郎 訳	しんはつばい! スイミー2 ～うんとかんがえよう スイミーのおもい～	島本 もえ (四箇郷小学校教諭)

協議会

場所	協議テーマ	指導助言	司会
3年1組	「自分のおもいを豊かに 表現する子をめざして」 ～相手意識・目的意識を明確にした 言語活動を通して～	須佐 宏 (和歌山大学教職大学院准教授)	松崎 夕海 (四箇郷小学校教諭)
1年2組	「自分のおもいを豊かに 表現する子をめざして」 ～相手意識・目的意識を明確にした 言語活動を通して～	南方 美紀 (和歌山市教育委員会指導主事)	佐々本 圭 (四箇郷小学校教諭)

令和7年11月5日

和歌山市立四箇郷小学校

国語科学習指導案

指導者 奥村 知也

1 日時 令和7年11月5日(水) 第5限目

2 学年・組 3年1組 (28人)

3 単元名 私だけのじんざ MAP を用いて message を伝えよう

教材名 『サーカスのライオン』 川村 たかし 文／降矢 なな 絵
(東京書籍 『新しい国語』 三上)

4 主たる単元の目標

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。

(C読むこと(1)イ)

5 単元で取り上げる言語活動

物語全体からじんざの行動や気持ちについて考え、じんざに宛てたメッセージを作成する。

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を増やそうとしている。 (1)オ	◎「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えようとしている。 C読むこと(1)イ	・じんざに宛てたメッセージを作成するという見通しを持ち、じんざの気持ちや行動の背景を説明したり、考えたことを積極的に伝えたりして、学習に取り組もうとしている。

7 授業の観点

本教材は、ライオンのじんざを中心に物語が進められる。じんざは変わらない毎日に退屈しながら、いつもアフリカの草原を走る夢を見ていた。ある日、元気のないじんざを心配した男の子と出会う。じんざは、男の子のサーカスが好きな気持ちに触れ、少しずつやる気を取り戻していく。ある夜、男の子の家が火事になり、じんざは檻を壊して飛び出す。燃え上がる家に飛び込み、男の子を抱えて外へ出ようとするが、高くて飛び降りられなかった。そこで力の限り吠えたことで消防士が気づき、男の子は助かった。しかし、じんざはひとかたまりの炎となり、ぴかぴかに輝きながら空を走り、暗闇に消えていくという物語である。男の子との会話を通してじんざの行動や気持ちを読み取ることができ、場面の移り変わりとともにじんざの心情の変化を読むことができる教材である。

本学級の子どもは、読書に対して前向きであり、さまざまな本に興味をもって読書をしている姿が見られる。また、学習にも意欲的に取り組み、多くの子どもが手を挙げて発表することができている。

一学期の物語教材『すいせんのラッパ』では、言語活動を音読劇と設定した。登場人物の様子から、どのように読めばよいかを考え（考え）、どの文章からそう考えたかを示し（根拠）、本文と考えとのつながり（理由）を説明してから学習を進めた。

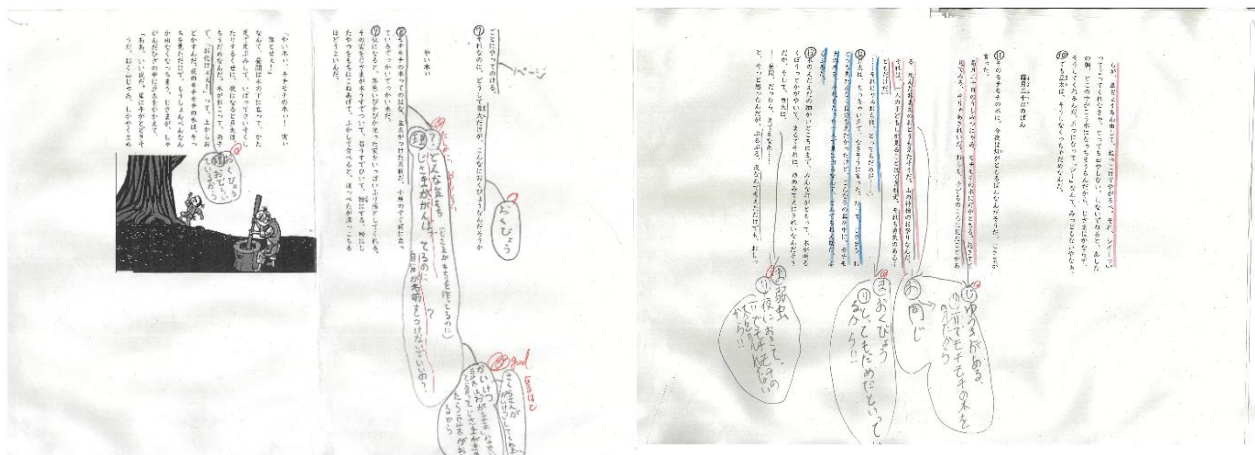
例えば、③段落の「おはよう。すいせん。」をうれしそうに読みます（考え）。なぜなら④段落「ありたちはわいわいはしゃいで」と書かれていて（根拠）、はしゃいでいる様子からうれしいと考えたからです（理由）。というように、根拠となる本文を明確にして考えることを意識させた。すぐに真似をして発表する子もいたが、考えと根拠のみで理由付けができていない子も多かった。理由を話すことで自分の考えが相手に伝わりやすくなることを実感し、自分の理解を深めることをねらったが、まだ十分に定着していない。

『ワニのおじいさんのたから物』では、言語活動にあらすじカードの作成を設定した。本文から読み取れる出来事に着目し、「いつ」「誰が」「どこで」「何を」「どうした」という要素を確認しながら学習を進めた。これにより、物語の前後関係を意識して読むことができた。

二学期の『モチモチの木』では、言語活動を性格ブックの交流とした。「この文章からこの性格がわかる。その理由は～」という形でワークシート（※１）に書き込む活動を行った。単元の最後には豆太とじさまの性格を文字の大きさや色などで工夫してまとめ、交流した。この単位では自由進度学習を初めて取り入れることで、個々の学びに主体的に取り組む姿や、交流の必要性を実感する姿もあった（※２）。交流を行うことで、本文と考えと理由の繋がりを意識して書けるようになった子も見られた。

このようにこれまでの学習を通して、本文を用いて自分の考えと理由を伝えられる子も徐々に増えては来ているが、半数程度の子にはまだ定着しているとは言えない。

※1 使用したワークシート



※2 学習の様子



本単元では、複数の叙述を基に中心人物の行動や様子から気持ちを考えられることを目指し、言語活動をじんぎに宛てたメッセージと設定した。

第一次では、メッセージで使用する媒体や書く内容をイメージさせるために教師が作成したメッセージ動画や手紙を子どもに示す。その際には既習教材の『モチモチの木』の豆太を題材として扱う。子どもに示すことで、じんぎに寄り添ったメッセージを書くためには、気持ちや行動に注目していく必要があることを共有したい。

第二次からは、自由進度学習を中心に学習を進めていく。自由進度学習では、本文中で中心人物の気持ちや行動がわかる部分に線を引き（根拠）、どんな気持ちだったのか（考え）、そう考えた理由（理由）をワークシートに書き込んでいく。それを「じんぎMAP」と名付け、友達と意見を出し合いながら自分だけのじんぎMAPを作り上げていく。各時間の最後には、読み取ったじんぎの気持ちの中で寄り添いたいポイントを色や字の大きさにアレンジする時間を設ける。アレンジすることで、子どもたちが心に残ったことが強調され、じんぎMAPを見返す際にわかりやすくなるような視覚的な手立てになると考える。また、学習中に生まれたじんぎの気持ちや行動に対する疑問をPadletで共有し、自分の考えを交流していくことで、中心人物の気持ちに迫っていきたい。しかし、交流していくなかで子どもたちだけでは解決できない課題が出ると予想される。その課題を解決する

ために、従来行ってきた一斉学習を用いてクラス全体で話し合う時間を設定する。

第三次では、じんざ MAP を基にじんざへのメッセージを作成する。便箋や、動画などからどれにするか子どもが自由に選べるようにする。完成したじんざへのメッセージをクラスの友達や保護者へ見せる活動を最後に取り入れたい。

この単元を通して、複数の叙述を基に読み取りじんざの行動の背景や気持ちに寄り添ったメッセージを作成する姿を期待している。

8 指導と評価の計画 全9時間 (本時7/9)

※別紙資料

9 本時の学習

前時で決めた話し合いたい疑問について考え、交流する

例) ぱっと火の中にとびこんだじんざは、どんな気持ちだったのだろう

例) ピカピカに光ったじんざは、どんな気持ちだったのだろう

例) 「ウォーッ」はどんな気持ちで言ったのだろう

(1) 本時の目標

疑問について考えたことを交流し、じんざ MAP を更新する

(2) 本時の展開

学習活動	教師の支援★と評価☆
○めあてを確認する (5分)	疑問について交流し、じんざ MAP を更新しよう ★友達同士の考えをつなげるように声掛けをする ☆「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 C (1) イ (発言・ワークシート)
○疑問について考える (10分) ・これまでのMAPを見ながら、ひとりで考えたり、友達と意見を交流したりする	
○全体で交流する (20分)	
○じんざ MAP を更新する (5分)	
○学習を振り返る (5分)	

(8) 指導と評価の計画

単元名 私だけのじんざ MAP を用いて message を伝えよう

教材名 『サーカスのライオン』 川村たかし 文 / 降矢なな 絵 (東京書籍 『新しい国語』 三上)

言語活動…じんざに寄り添ったメッセージを作成する。

次	時	ねらい	学習活動	評価の観点	評価方法	期待する子どもの姿
一	1	・第三次のメッセージを書く活動の見通しをもつ。	・メッセージにはどんな内容を載せるといいか考え、相手に寄り添った手紙とはどういうものかを話し合う。			・どんなメッセージが相手に響くか考えようとしている。
二	2 3 4 5 6	・叙述を基にじんざの気持ちを考える。	・ワークシートに本文からわかるじんざの気持ちを書き込む。【自由進度学習】	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を増やそうとしている。(1)オ ・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えようとしている。 C(1)イ ・じんざに宛てたメッセージを作成するという見通しを持ち、じんざの気持ちや行動の背景を説明したり、考えたことを積極的に伝えたりして、学習に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	・ワークシート ・授業態度 ・発言	・叙述を基に考えと理由を結びつけて考えようとしている。 ・友達と交流し、話し合いながらじんざの気持ちについて考えようとしている。 ・一人で本文をよく読み、じんざの気持ちについて考えようとしている。
	7 本時	・じんざの行動の背景にある気持ちについて考える。	・自由進度学習内で出た疑問をみんなで解決する。	・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えようとしている。C(1)イ ・じんざに宛てたメッセージを作成するという見通しを持ち、じんざの気持ちや行動の背景を説明したり、考えたことを積極的に伝えたりして、学習に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】		・叙述を基に考えと理由を結び付けて発表しようとしている。 ・疑問について複数の叙述を基に考えようとしている。
三	8 9	・じんざの気持ちを捉える。	・じんざの気持ちを考え、メッセージを書く。		・メッセージ	・学習した内容を基にじんざに寄り添いたい部分を選び、メッセージの内容を考えようとしている。